

Ⅰ 制度の内容

(1) 適用する期間

令和7年10月1日から令和8年3月31日まで

(2) 対象者

いずれかに該当する方を対象

ア 65歳以上の市民

イ 障害者（※障害者手帳所持者）である市民

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の3種

(3) 手法

ア スマートフォン等のICTを活用し市公式LINEまたはwebで申請・更新

イ 申請・更新のあった方へバス運賃無料証明書の画像を送信

ウ 送信された証明書の画像をバス降車時に運転手へ提示することでバス運賃が無料となる

2 社会実験の概要

(1) 期待する効果（仮説）

- ア バス運賃を無料にすることで、外出する機会が増え、社会参加や生きがいに繋がっている。
- イ 電子申請によりバス運賃を無料にすることで、スマートフォン等を利用する機会が増え、更にコミュニケーションの機会が増えるなど、生きがいに繋がっている。

(2) 効果確認方法

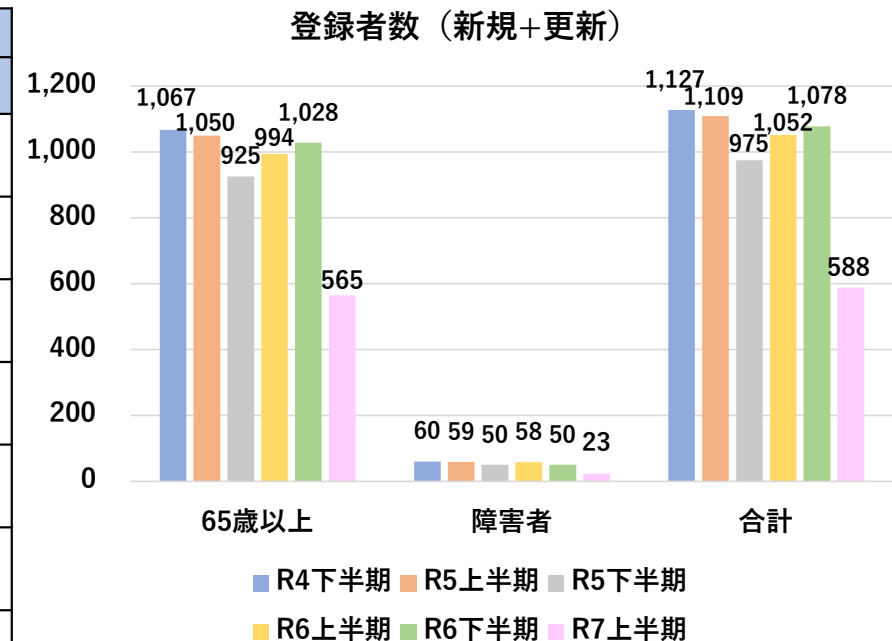
- ア 申請時点でのアンケート調査
- イ 無料証明書更新時点でのアンケート調査
- ウ 社会実験によるスマートフォン等の利用機会

3 社会実験の検証結果・分析

登録者数（延べ）

【各年度集計】

年度	新規登録者数			更新登録者数		
	65歳以上	障害者	小計	65歳以上	障害者	小計
令和4年度 下半期	1,067	60	1,127	0	0	0
令和5年度 上半期	214	8	222	836	51	887
令和5年度 下半期	107	9	116	818	41	859
令和6年度 上半期	137	8	145	857	50	907
令和6年度 下半期	116	7	123	912	43	955
令和7年度	35	2	37	530	21	551
合計	1,676	94	1,770	3,953	206	4,159

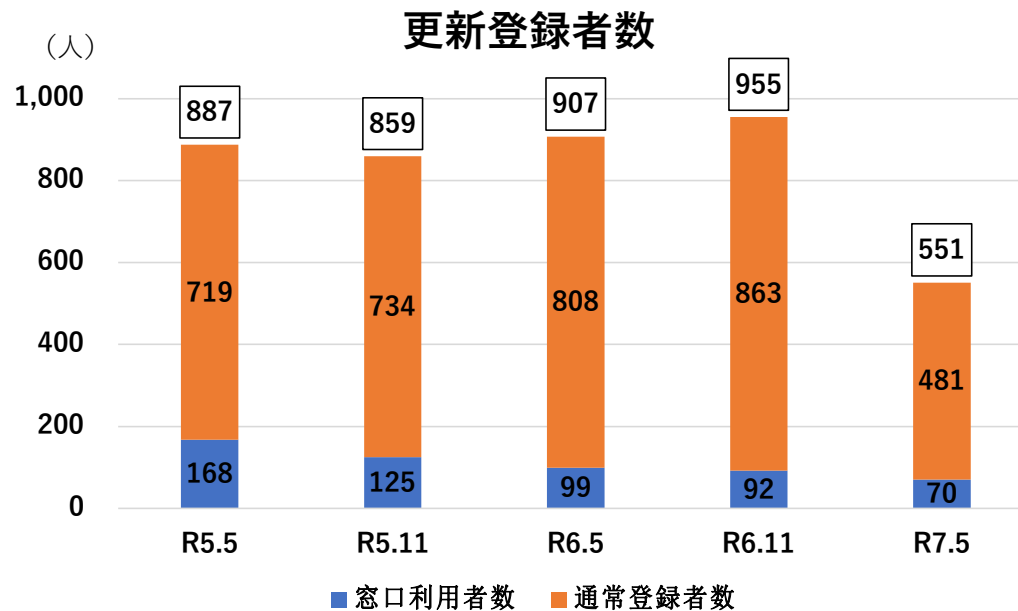


【分析】

年間の登録状況：65歳以上は1,000人程度、障害者は50人程度（更新登録者数については、年2回更新）若干ではあるが、年々登録者数が増加している。

3 社会実験の検証結果・分析

更新時の更新窓口利用者数の状況



【分析】

R5.5月の更新時と比較すると、利用者数が減少しており、直近のR7.5月の更新時には半分以下となっていることから、スマートフォン等の活用によりデジタルデバイドの解消へ前進しているものと推測する。

令和5年5月 168人

	午前	午後	合計
5月8日	21	10	31
5月9日	19	19	38
5月10日	16	13	29
5月11日	12	9	21
5月12日	5	10	15
合計	73	61	134

	午前	午後	合計
5月22日	4	3	7
5月23日	5	3	8
5月24日	8	2	10
5月25日	2	1	3
5月26日	3	3	6
合計	22	12	34

令和5年11月 125人

	午前	午後	合計
11月13日	22	10	32
11月14日	19	12	31
11月15日	18	10	28
11月16日	10	10	20
11月17日	6	8	14
合計	75	50	125

令和6年5月 99人

	午前	午後	合計
5月13日	12	7	19
5月14日	28	10	38
5月15日	17	4	21
5月16日	4	6	10
5月17日	5	6	11
合計	66	33	99

令和6年11月 92人

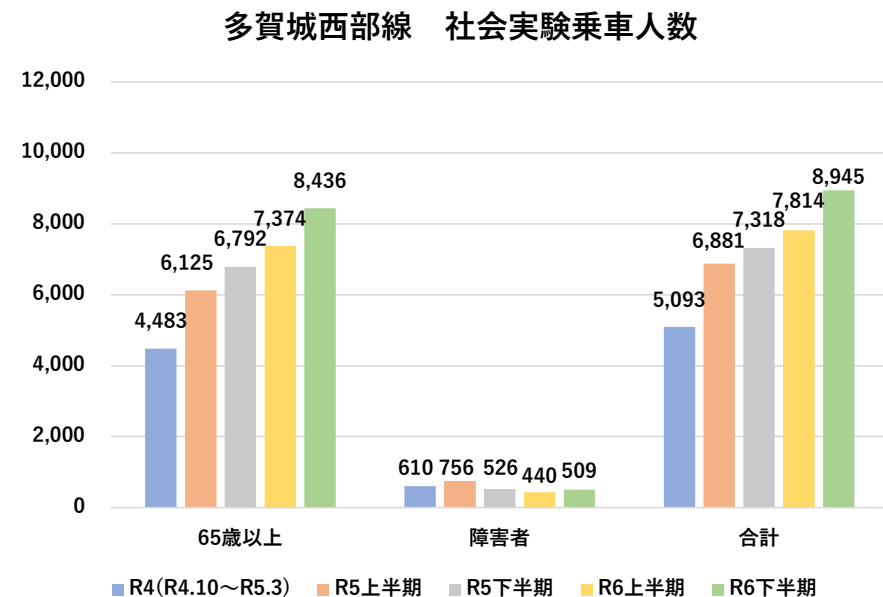
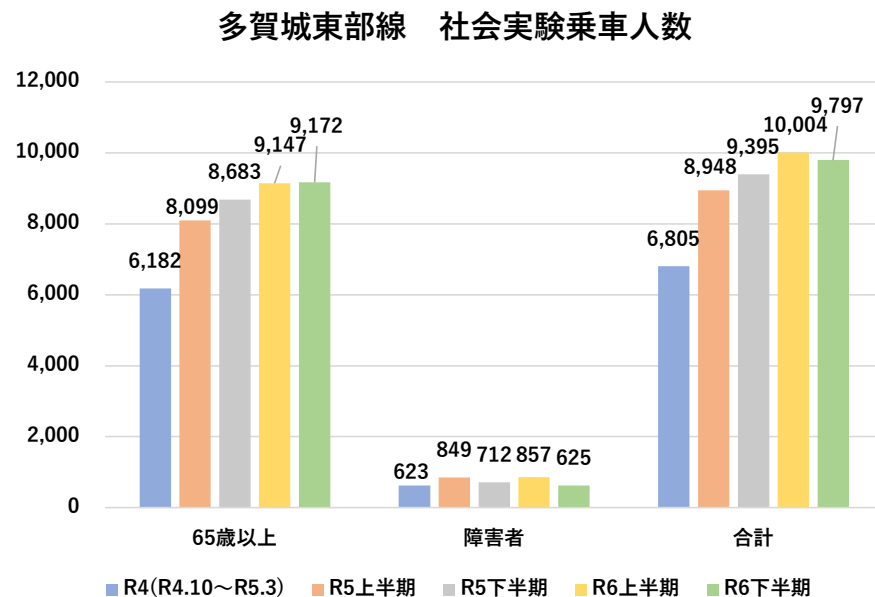
	午前	午後	合計
11月11日	25	18	43
11月12日	21	12	33
11月13日	11	5	16
合計	57	35	92

令和7年5月 70人

	午前	午後	合計
5月14日	26	12	38
5月15日	8	8	16
5月16日	6	10	16
合計	40	30	70

3 社会実験の検証結果・分析

多賀城東部線・多賀城西部線 社会実験乗車人数



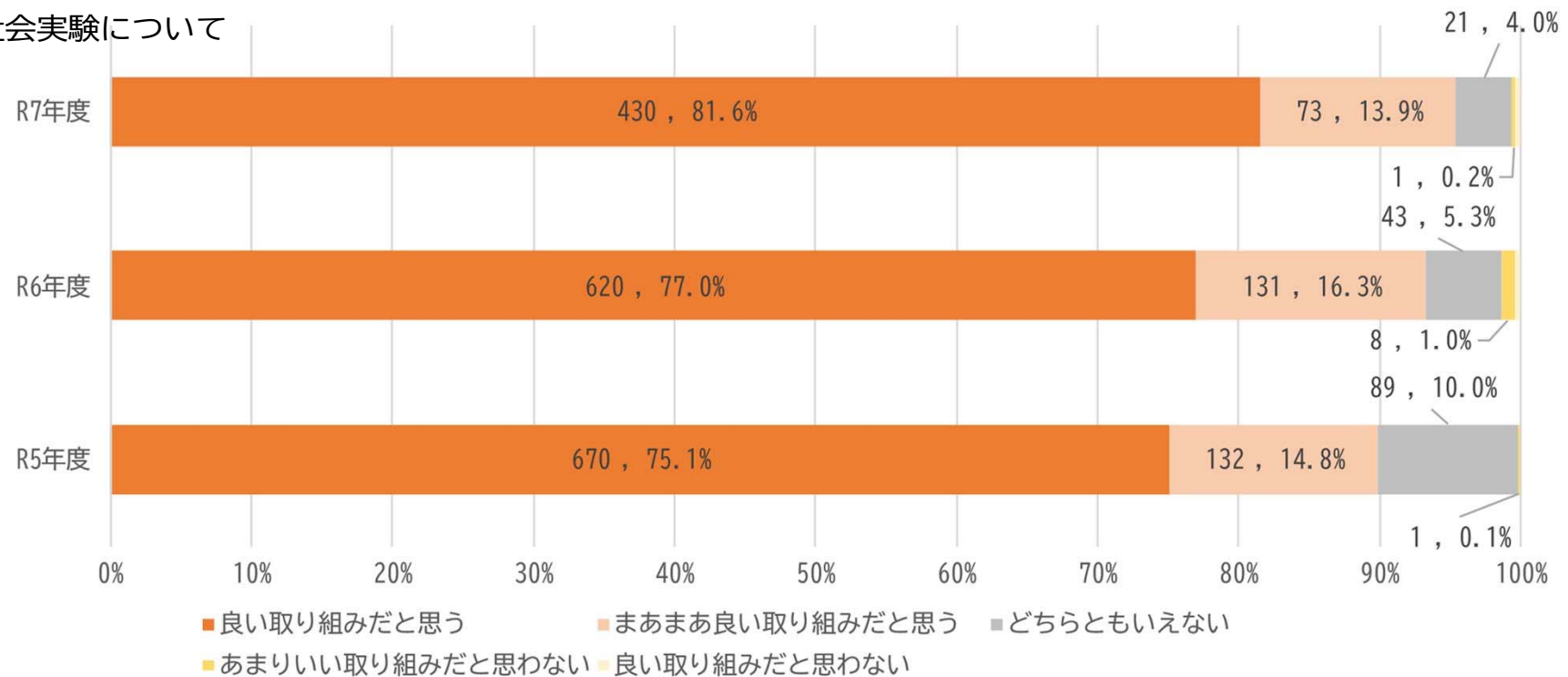
【分析】

R4.10月の社会実験実施以降、乗車人数は増加傾向にあり、高齢者や障害者の2路線を利用した外出機会が増えているものと推測する。

3 社会実験の検証結果・分析

アンケート結果

問1. 社会実験について



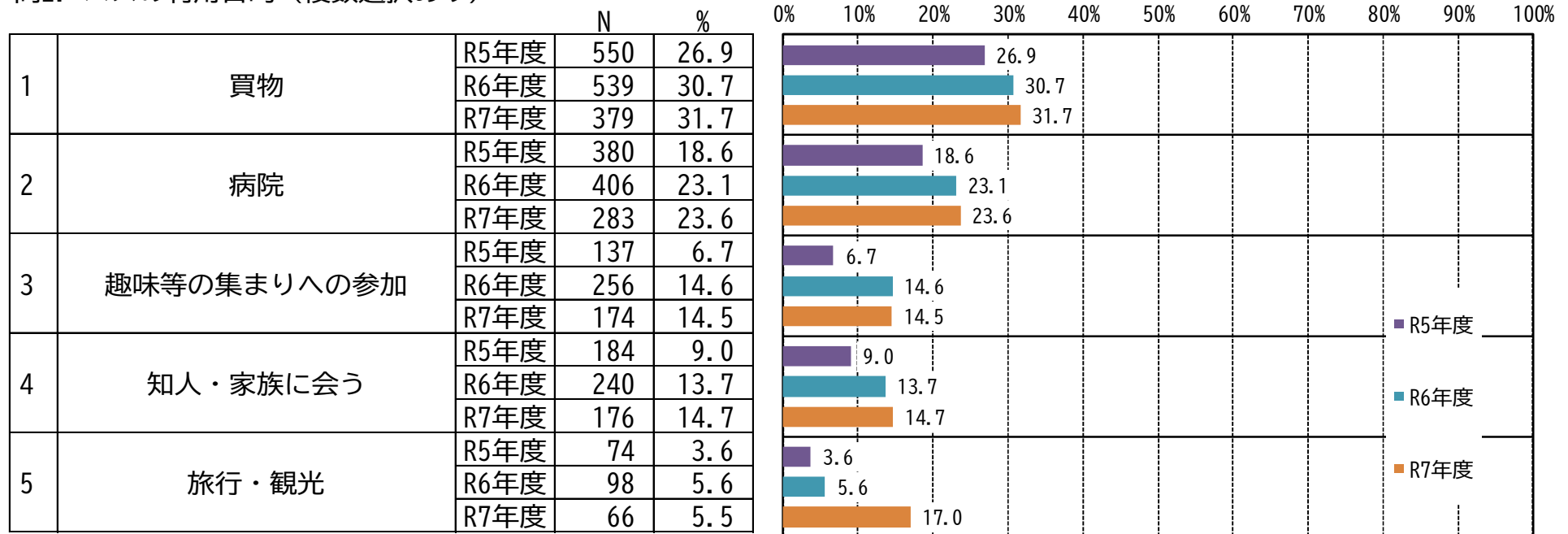
【分析】

「良い取り組みだと思う」「まあまあ良い取り組みだと思う」は、社会実験実施以降、増加傾向にあり、R7年度は95%を超える状況となっている。

3 社会実験の検証結果・分析

アンケート結果

問2. バスの利用目的（複数選択あり）



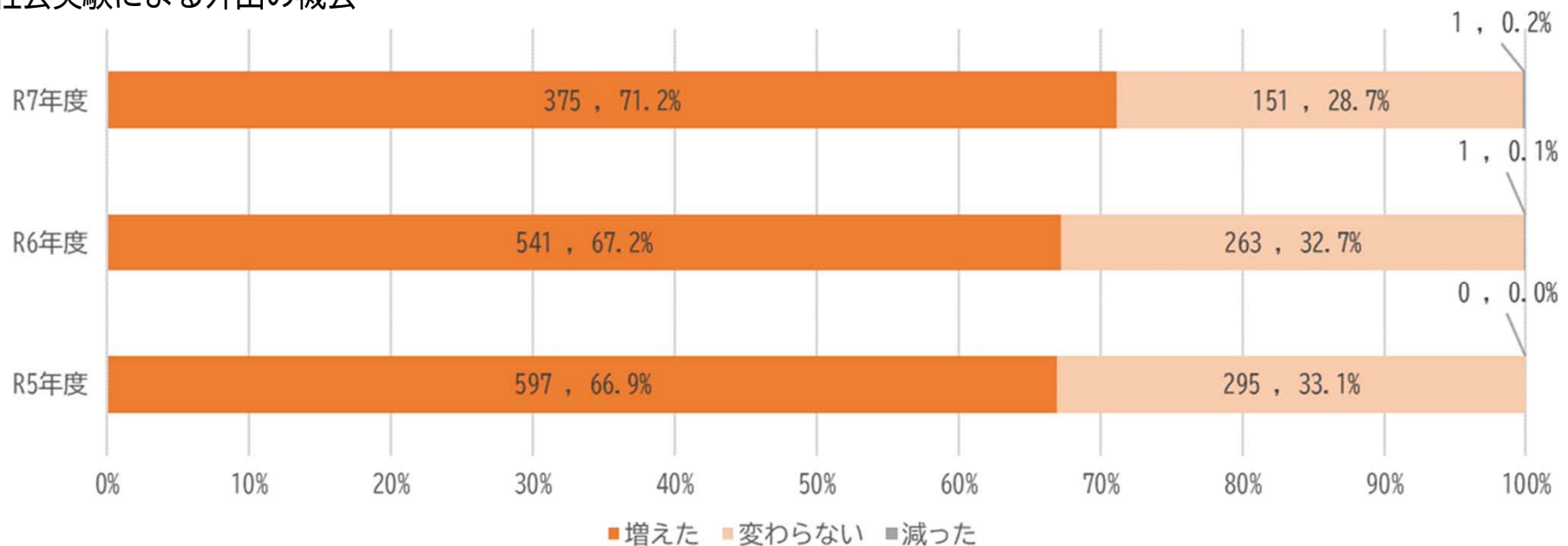
【分析】

バス利用目的の上位5つの結果から、高齢者や障害者の移動手段として社会参加や生きがいくりの一翼を担っていると推測する。

3 社会実験の検証結果・分析

アンケート結果

問3. 社会実験による外出の機会



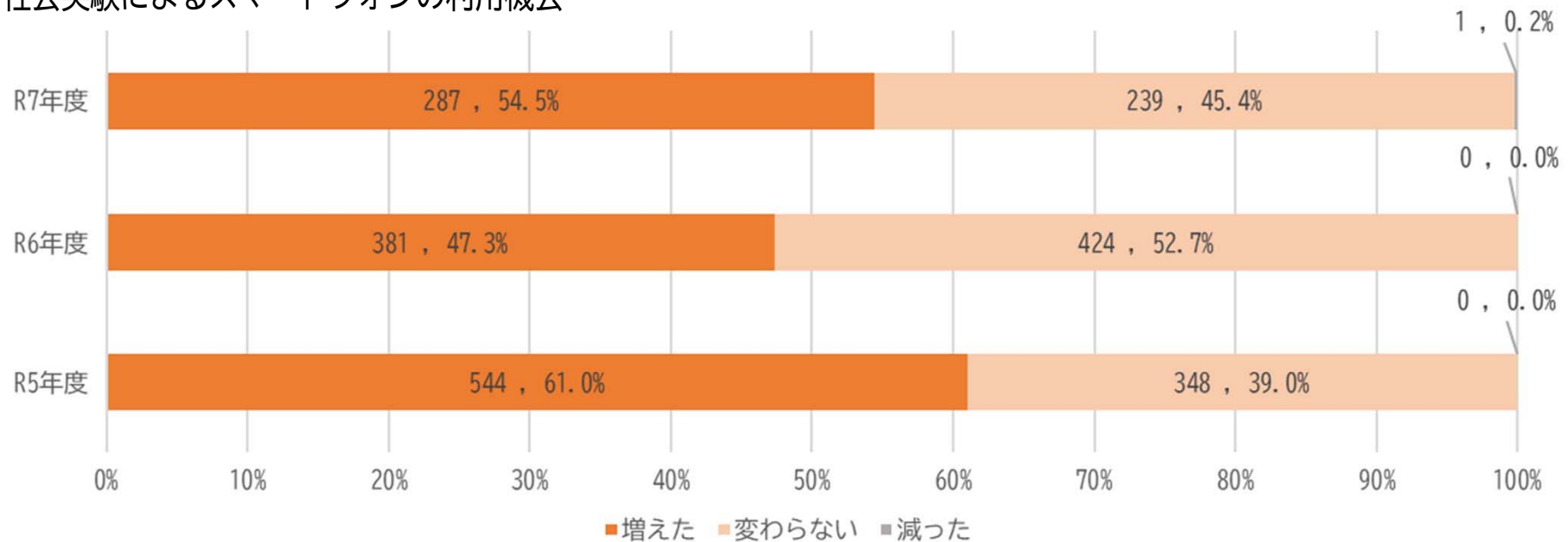
【分析】

「外出の機会が増えた」は、社会実験実施以降、増加傾向にあり、高齢者や障害者の社会参加や生きがいに繋がっていると推測する。

3 社会実験の検証結果・分析

アンケート結果

問4. 社会実験によるスマートフォンの利用機会



【分析】

「スマートフォンの利用機会が増えた」は、R5は60%を超え、その後は50%前後となっていること、また、「変わらない」はR6以降、50%前後となっていることから、高齢者や障害者が一定程度スマートフォンを利用することができ、デジタルデバイドの解消へ前進しているものと推測する。

3 社会実験の検証結果・分析

社会実験期間中のご意見等

- ①スマートフォン等を持っていない人への配慮はないのか
- ②他自治体で導入している敬老乗車証の検討はしないのか
- ③当該2路線以外のエリアに居住している市民は恩恵を受けられないのではないか
- ④無料証明書や運転経歴証明書（マイナ経歴証明書を含む。）、障害者手帳、フリーパス（西部線）の確認、各種利用人数の記録をすることが運転手の負担や運行時間に影響を及ぼしている

4 まとめ

社会実験

- ◆仮説① バス運賃を無料にすることで、外出する機会が増え、社会参加や生きがいづくりに繋がっている。
→乗車状況からも、高齢者や障害者の外出機会が増加しており、利用目的からも社会参加や生きがいづくりの一翼を担っている。
- ◆仮説② 電子申請によりバス運賃を無料にすることで、スマートフォン等を利用する機会が増え、更にコミュニケーションの機会が増えるなど、生きがいづくりに繋がっている。
→利用機会からスマートフォンの利用が習慣化しており、「バス運賃無料証明書」の画像をサポートしなくても提示できる社会実験参加者が増えていることから、デジタル社会の恩恵を享受していると思料している。
また、外出による社会参加が増え、コミュニケーションの機会が拡大している。

意見への対応

社会実験から得られた意見は、今後の検討の参考とする。

5 今後の方向性

高齢化社会が進展する中で、社会実験の検証結果から実験による行動変容を通じた社会参加や生きがいづくりについて一定の効果を生み出すことはできたと分析し、引き続き関係分野との連携を図りながら今後も同様の効果を生み出せるよう**バス運賃の割引については継続とする。**

ただし、手法（市公式LINEまたはwebでの申請や証明書（媒体））や割引条件について改善・検討を行うとともに、令和8年4月から運用予定の「地域公共交通計画」との整合性を図るため、**令和8年3月31日までの間は現状の取組を暫定的に運用する。**

